

解説

上野地区における 地下街浸水対策施工事例

か り の じ ゅん い ち
狩野 純一

東京都下水道局
第一基幹施設再構築事務所
工事第二課長

す す き た く ろ う
鈴木 卓朗

東京都下水道局
第一基幹施設再構築事務所
工事第二課工事担当・第一

み た こう す け
三田 耕輔

大盛・鈴与建設共同企業体(特)
現場代理人

1 はじめに

国連気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第六次評価報告書では、1850年から1900年を基準とした世界平均気温の変化について示されている。これによると2050年度頃までには1.5～2℃程度まで上昇する可能性があるとして予測され、降雨量の増加や台風の強大化等が想定されている。

実際に東京都では時間50ミリを超える降雨が増加しており、昭和50年代には時間50ミリを超える降雨が観測されない年もあったのに対し、近年では20%以上の発生率が計測されることも多く、時間50ミリを超える降雨の発生率は増加傾向にあることがわかる（図-1）。

このため、都は「東京都豪雨対策基本方針」を策定（2007年）・改定（2014年、2023年）し、浸水対策に取り組んでいる。

東京都台東区に位置する上野駅地区は、JRや地下鉄駅のほか、周辺に地下道および地下駐車場が整備されており、東京都豪雨対策基本方針（改定）におい

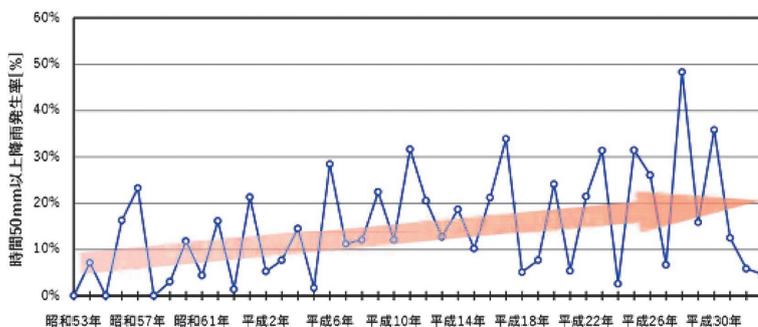


図-1 都内における1時間50ミリを超える豪雨発生率の推移¹⁾

て、上野・浅草駅地区は浸水被害を軽減するため、重点地区として指定されている。本稿では浸水対策事業の一環として、都心部における交通状況、地下埋設物、近接する建設物等の制約を受けた、上野駅地区での下水道工事における推進工法の施工事例について説明する。

2 上野地区地下街浸水対策の概要

本事業は、上野駅地区の大規模地下街に対する浸水対策として、時間75ミリ降雨に対応する下水道施設

